◆リハビリテーション室

室　長　五十嵐稔浩
係　長　力丸　孝臣

2017年度は、成長のための効率化～Ｅｆｆｉｃｉｅｎｃｙ　ｆｏｒ　ｇｒｏｗｔｈ～をスローガンに、急性期～回復期の入院リハビリの強化と効率化を目標とし、急性期における個別リハ介入数増加と強化、地域包括ケア病床では個別リハに依存しないリハの提供、回復期リハビリ病棟においては、入退棟における病床コントロールの見直しと病床稼働率の強化などに取り組んだ。

１.人員体制

専任医：6名（回復期リハビリ病棟専従医1名）
理学療法士：15名　作業療法士：13名
言語聴覚士：6名（1名は在宅支援室・訪問リハビリと兼務）
計：31名

２.2017年度リハビリ依頼状況

リハビリ依頼件数は、入院疾患別リハビリ589件、外来リハビリ100件、摂食嚥下療法30件、計719件であった。

表－1　リハビリ依頼件数の推移

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
入院疾患別リハ	701	711	676	720	589
外来リハ	71	78	71	73	100
摂食機能療法	89	75	42	15	30
合計	861	864	789	808	719

※消炎鎮痛処置は除外

３.2017年度入院疾患別リハビリ

（１）患者属性

男性215件　女性338件
平均年齢79.0歳(男性75.8歳　女性81.1歳)

（２）疾患別リハビリなど分類

表－2　入院疾患別リハビリ分類

	2013	2014	2015	2016	2017
脳	155	167	150	131	152
運　動	256	275	252	304	257
呼　吸	54	81	64	90	46
廃　用	209	142	167	162	112
が　ん	25	43	42	31	22
消　炎	2	3	1	2	4

４.2017年度外来リハビリ

（１）患者属性

男性45件　女性58件
平均年齢61.6歳(男性57.6歳、女性64.7歳)

（２）疾患別リハビリ分類

表－3　外来リハビリテーション疾患別分類

	2013	2014	2015	2016	2017
脳	1	5	5	8	4
運　動	66	68	64	66	96
呼　吸	1	0	0	0	0
廃　用	0	0	0	0	0
心理検査	1	1	3	1	1
消　炎	1	3	1	0	2

５．アウトカム評価

～在宅復帰率とＦＩＭ利得および疾患別リハビリ分類～

対象：2017年4月1日～2018年3月31日までに当院のリハビリを受けて退院した患者

（１）病棟（床）別在宅復帰率とＦＩＭ利得および疾患別リハビリ分類

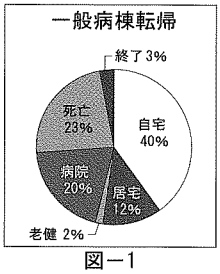
一般病床：退院者65名（男性27名、女性38名）
平均年齢79.8歳

表－4　一般病床在宅復帰率および転帰先（図－1）

復帰先	自宅	居宅	老健	病院	死亡	終了
件数	26	8	1	13	15	2
%	40	12	2	20	23	3

表－5　一般病床疾患別リハビリ分類

疾患別	がん	脳血管	運動器	呼吸器	廃用	摂食
件数	5	7	14	8	19	12
%	8	11	22	12	29	18



図－1

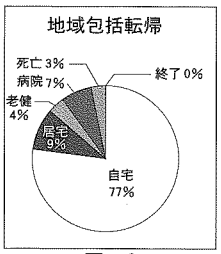
地域包括ケア病床：退院者248名（男性112名、女性136名）
平均年齢78.2歳

表－6　地域包括ケア病床在宅復帰率および転帰先（図－2）

復帰先	自宅	居宅	老健	病院	死亡	終了
件数	191	23	9	17	8	0
%	77	9	4	7	3	0

表－7　地域包括ケア病床疾患別リハビリ分類

疾患別	がん	脳血管	運動器	呼吸器	廃用	摂食
件数	10	24	108	24	67	15
%	4	10	43	10	17	6



図－2

回復期リハビリ病棟：退院240名（男性77名、女性163名）

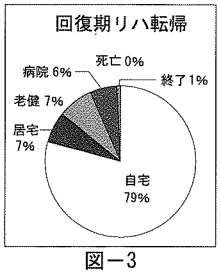
平均年齢79.7歳

表－8　回復期リハビリ病棟在宅復帰率および転帰先（図－3）

復帰先	自宅	居宅	老健	病院	死亡	終了
件数	190	16	18	14	0	2
%	79	7	7	6	0	1

表－9　回復期リハビリ病棟疾患別リハビリ分類

疾患別	がん	脳血管	運動器	呼吸器	廃用	摂食
件数	0	99	140	0	1	0
%	0	41	58	0	1	0



図－3

（２）病棟（床）別ＦＩＭ利得

	入院(床・棟)時ＦＩＭ	退院時ＦＩＭ	ＦＩＭ利得
一般病床	58.87	63.81	4.94
地域包括	85.08	95.74	10.65
回復期リハ	72.20	101.36	29.16

【リハビリ室における2017年度のまとめと今後の課題】

リハビリ室は、2017年度より介護保険事業の拡大（通所リハビリの開設）に伴い、医療と介護の機能分化および効率的な事業運営のために、リハビリ室と在宅介護支援室とに分化された。リハビリ室は、入院および外来リハビリの医療事業を担当し、それぞれの業務効率化を推進した。

リハビリ処方件数は、前年度と比較し減少傾向となったが、脳血管リハビリは31件の増加、回復期リハビリ病棟における病床稼働率は約95%、脳卒中の入棟者比率は55%を上回った。また、一般・地域包括ケア病床においては、一般病棟における個別リハビリの介入数増加に取り組み、地域包括ケア病床では、病棟スタッフとの協業による病棟リハビリの実施など効率化を図った。その結果医療事業はいずれの事業においても前年度の実績を上回った。

回復期リハビリ病棟における在宅復帰率およびＦＩＭ利得の全国平均は、在宅復帰率79%・ＦＩＭ利得14.00点（※1 2015年度実績）であるが、当院は89%の在宅復帰率と29.16点のＦＩＭ利得を得ており、高い水準を保持している。今後も、質の高いリハビリサービスの提供により、地域のリハビリニーズに応えていくことができるよう尽力したい。

今後の課題として、周辺地域の高齢者人口の増加および全人口減少は、在宅復帰支援および地域生活の継続において懸念すべき課題である。次年度は、前方連携の強化、一般病床・回復期リハビリ病棟における稼働率・処方数・単位数等の増加に向けた取り組みと地域包括ケア病床におけるリハの効率化などの病院の安定的な運営に貢献するとともに、人口動態の変動に応じたリハビリテーションニーズを把握しそのニーズに対する検討と対応など、スタッフ一丸となって取り組んでいきたいと考える。

※1　回復期リハビリテーション病棟協会資料より引用